

第4回府中市次世代育成支援行動計画検討協議会 議事要旨

【アンケート調査結果について】

子育ての孤立や不安について

ひとりっ子が多く、専業主婦が多い中で、子育ての孤立が予想される。

子育て不安に配偶者の協力状況が影響しているとの結果がでていたが、むしろ配偶者とのコミュニケーションがとれているかという方が影響するのではないか。

子ども家庭支援センター「しらとり」の在所者のうち、DVが6割、うち6割が子どもにも虐待があるとみられ、暴力の連鎖という状況もある。

専業主婦を中心として子どもとの接し方に自身がない人が多い。ひとりっ子で親になり、子育てのモデルとなる人がおらず、子育ての仕方がわからない人が多いのではないか。

同じ境遇にある人同士の交流は有意義のよう。ひとり親の場合も、「親の会」が親同士の仲間づくりなどに役立っている。

働いている人も、専業主婦もそれぞれが孤軍奮闘している。それぞれに子育て支援のニーズはある。専業主婦でも一時保育のニーズは高い。

保育サービスのあり方について

保育サービスについては、お互いの信頼関係をベースにした利用の形にするべき。

「お母さんは運転席、支援者は助手席に」と、支援者が帰った後もその家庭が廻っていくようにするべき。

子育て支援の中核施設について

アンケートの自由回答で調布市の子ども家庭支援センター「すこやか」を希望する人が多くみられており、府中市でもそういった子育て支援の中核施設のニーズが高いことがうかがえる。

ただし、箱ものができるばよいというわけではなく、その使い方の検討も必要である。

子どもの遊び場について

アンケートでは、土曜日、日祝日を家族で過ごすことが多い結果がでている。子どもが外で遊んでいない。

子どもの遊び場は行政が用意すべきことではないのではないか。地域の受け皿を地域住民の皆でつくっていく必要がある。

子どもが外で遊べない理由として治安の問題がある。親が安心して子どもを出せるような安全の確保が遊び場に関しては必要ではないか。

文化センターが子どもの遊び場としてあるが、図書室は大人が読書をしていて、親子連れは利用しづらい。そこを子どもの観点からも使いやすいように、手立てが必要である。

これからの支援のあり方について

府中市は施設を重視してきたが、それをうまく使っていくためのしかけは十分ではなかった。

これからは、「自分達の地域は自分達で創っていく」という意識で、住民も参加して施設をどのように有効活用しながらソフトの部分を作り上げていくかということが重要である。

そのためのしくみやしかけをこの計画の中に盛り込んでいくべきではないか。
そもそも行政にすべてをやってもらうのが当たり前という意識を市民も変える必要がある。
行政、民間事業者、NPOとそれぞれの役割分担も進めて、行政のムダを省いていくことも必要。

【その他】

計画の基本理念等については、追い追い検討していく事項として了解を得た。
アンケート結果については、貴重なデータであるので随時整理、考察を丁寧に行っていく。